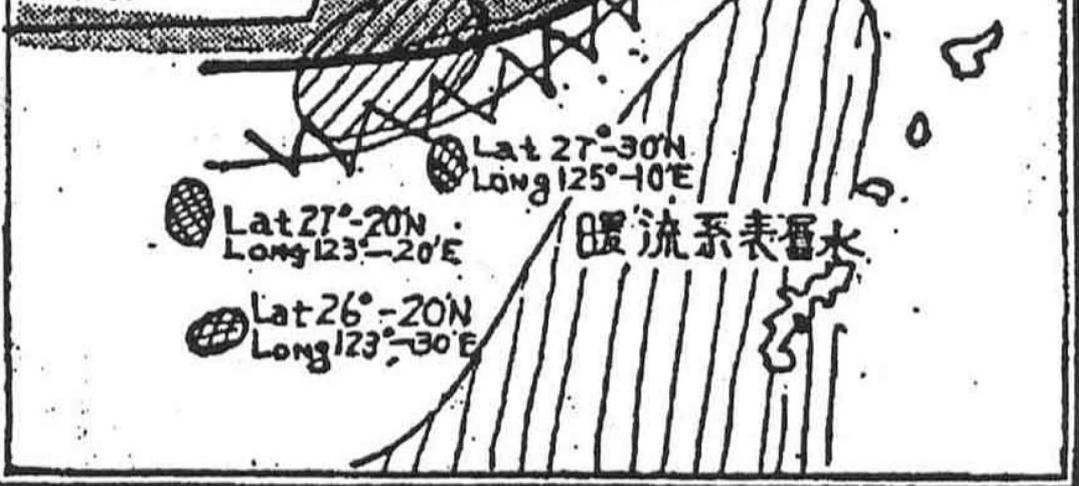


大陸系沿岸水

● 鰹魚郡見位置

魚場
W 汐境



近海漁場

(1)

鰹はわ釣りはつい二、三年前に開拓された新規の業種だが、琉球近海の漁場は極めて資源豊富だとされ、遠く日本の漁船も参集している実情である。

漁場は北緯二十五度二十分ー東経百二十六度ー同北緯二十八度十分ー東経百三十四度五十六分ー同北緯二十六度

二十分ー東経百二十三度三十分の周辺、漁場は大体二百米以浅のいわゆる大陸棚上が中心となっており、この地域は季節はすれの夏分にも船が回遊しているという実情のようである。

特に北緯二十八度十分ー東経百二十四度五十六分と北緯二十九度二十分ー東経百二十六度ー久米島北西百一三十哩ーは東

暖、寒流の潮界

海における春夏秋期の鰹漁場として、鹿児島近海、済州島漁場とともに資源面では重要な水域とされている。

更に魚釣島周辺が冬期の鰹漁場としてはこれまでの実績が証明している。

琉球近海の鰹漁場がすぐれた点についていうならば、つまり暖

流と大陸系の寒流の潮境のしかも下層水が渦をまく流域からなっている点といわれている。昨年まで沖廻をはじめ全琉各地から十二、三隻(三〇トンー四〇トン)の船がこの海域で操業

大体一航海一週間で多いので二万斤、少いので七、八千と漁獲をあげてきたが、何しろ大衆魚で値がよくない上に、更に益盛

による暴落で仕込費も稼げず、いまでは流水社だけが煤かに鰹はわ釣りといいた資源を死守している格好になっている。このことは魚群探知機、または方向探知機といつた近代設備を伴わない貧弱な漁船、おまけに技術的な不なれ、更に冷蔵施設による合理的な販売調整など、すべての隘路が直ちに鰹はわ釣りの不振となつて

いるが、たゆまざる努力と意欲さえあれば鰹はわ釣りは前途有望だといわれている。名実ともに大衆魚としての鰹漁業を、果してモノにし得るかどうかが、今年の水産業の第一の課題といえよう。

カッタは九州方面からはるばる遠征してこゝち久米島北方の鰹漁場

(請)

1957.1.5
T(2)